

開創1周年記念法会開催

さる 12 月 2 日 (月)「七福神のお・も・て・な・し！」として七寺社様からの食^{じきほうえ}法会が四天王寺本堂で開催されました。

230 名のご参加を頂き、皆様の願いが読み上げられました。又、各方面よりご芳情賜り深謝申し上げます。



巡拝ちよつといい話

巡拝される方の中にはドラマが潜んでいます。

ある日、高山神社に一人の初老の男性が車椅子の方と来られました。「先日友人が病氣平癒を願って七福神の色紙を送ってくれました。こんなに動けるようになったのでお礼参りに来ました」とのこと。京都からのお参りでした。巡拝される方々の思いが叶いますようにと願っています。

あるお寿司屋さんに七福神の色紙が贈られました。店主は早速、「商売繁盛に」と、入口に飾りお客様をお迎えしています。

寄稿

■巡礼について (岡山県威徳寺住職 永田暁一)

巡礼の目的は、観音経にもあるように、人々の諸難を救い、各種の願事の達成を願ってであります。阿弥陀信仰が往生極楽(安楽死)と願うのに対して、観音信仰は、難行苦行とはいえ現世利益を願う場合が多い。とくに京都や大阪から那智山への巡礼は熊野十九王子の道による難行で有名でした。

西国三十三ヶ所巡りは三十三ヶ所の本尊を模刻した笈(キュウ)を負い、三十三ヶ所の寺々をまわると共に、道中において信仰の厚い家を訪れ、門付けをして若干のお金やお米をもらっている。そのため乞食坊主といわれることもあった。

巡礼への発願は、物見遊山は別として、たとえていえ

ば「女厄といって、女三十三では、まだ更年期ではないが、子育ての厳しい頃と共に、三十三霊場などという数字的関連から、昔は三十三才をサンザンとして恐れられたようである。ここで一つ「円」を画いてみましょう。それはどこから書き出しても、きっと元の点にかえってきます。だから、「円」と「直線」とには、大きな違いがあるわけですね。つまり私たちの仏法聴聞も、点を積み重ねて延ばしていく直線ではなくて、つねに初心に立ち返ってゆく円を画きながら、一生涯お聞かせにあずかってゆくということが一番大切なことだと思います。

妙好人三州(愛知県)の長松同行は、私たちには三つの持病があるといましました。

その一つは御恩を忘れる病い、二つは称名を怠る病い、三つは参詣を怠る病いであると・・・。

そうして、この三つの病いの妙薬は、まず御恩を忘れる持病のおこったときは「如来大悲の御恩は、身を粉にして報ずべし、師主知識の恩徳も、骨をくだきて謝すべし」の親鸞聖人の御和讃を思い出すがよい。次に称名を怠る病に気付いた時は「弥陀大悲の誓願を、深く信ぜん人はみな、寝ても覚めてもへだてなく、南無阿弥陀仏をとなくべし」の一首を思い起こすがいい。また次に参詣を怠る病気には「たとえ大千世界にみたらんをも過ぎゆきて、仏の御名をきくひとはながく不退にかなふなり」の御和讃をいただこうと、戒めたと申します。

「初心わするべからず」は「初心にたちかえる」私たちの仏法聴聞の姿勢でありましょう。

そして、巡礼をすすめるよき指導者も、とても大切でありましょう。

鳴く声のよきも悪しきも親鳥の教えによるぞ藪の鶯

■参拝 伊勢市祥雲山 自性軒 廣 晃義

春の日ざしが眩い暖かい日々を迎えると、何となく心弾む気持ちになってきます。

四天王寺東堂様より七福神友の会の原稿を頼まれましたのでこれを機会にと思い孫を連れてのお参りをさせて戴きました。小さな手を合わせる孫を見つめ

ている瞬間に改めて、七福神様との出会い、ご先祖様への感謝が胸にこみ上げてきた。こうしてお参りが出来る事への新鮮な驚きと感動、決して当たり前ではない不思議なご縁への有難さを感じました。

この七福神霊場を開創されました皆様方の思いがそのまま、参拝者の供養の真心中に届いているのではないのでしょうか。

孫と一緒に参拝の楽しさに思いを馳せるとき、今生かされていることの大切さを深く思わずにはおられません。参拝を終えたとき、心に神仏を宿しているならば、辛いときも、楽しいときも、どんなときでも感謝と希望を忘れずに全てのものに心を通わせて、生きて行けたらよいのになぁと思いながら、帰路につかせて戴きました。



■ 中秋雑感 群馬 良珊寺 永井 政之

気温、豪雨、竜巻、どれをとっても「異常気象の夏」でした。地球温暖化のなかで、天候をめぐって天気予報士が言う、「かつて無かったような」という表現はしばらく続きそうです。

今年9月7日の朝日新聞には、契約電気量5アンペアで過ごして14カ月という記者氏の生活の様子がレポートされていました。冷蔵庫なし、エアコンは扇風機で代替、太陽光発電を利用などなどさまざまな工夫で酷暑を乗り切った結果、1ヶ月の出来料金は300円に満たないとのこと。単なる面白がりの報告ではなく、名古屋転勤後のこれからも続けるとも記者氏は述べています。私たちが、記者氏のような生活を出来るかどうか。ただしこのような生活が、じつは昭和30年代まではふつうの生活だったことを思い出します。大きな変化をもたらしたのが東京オリンピックというのが昨今の説です。大震災から2年半がたちました。「のど元過ぎれば」の喩えのように、あの頃の「節電」

の雰囲気は、すっかり影を潜めてしまったと言ったら言い過ぎでしょうか。「省エネ」「環境」、ずいぶん前から耳になじんだ言葉ながら、「総論賛成、各論??」ということで、問題の解決まだまだ先のようです。もっともハイブリッド・カーや電気、水素自動車、さらには太陽光発電などの出現普及からすれば、一方では、人間の知恵のすばらしさを垣間見るようでもあります。いったい「自己」の尊厳の確立は当然ながら、「他己（他人自身の尊厳）」も認めよというのが道元禅師の教えです（『正法眼蔵』現成公案）。自己と他己の対立のないところに「仏道」があるとされるのですが、これをいささか現代風に捉えれば、人間と科学との関係と置き換えられそうです。

地球にとって最大の公害は人間が存在することだと誰かの発言を聞いたことがあります。存在する人間の抹消が論外である以上、あとはどう折り合いを付けるか。事は人間と科学との対峙だけでなく、人と人との関係にまでも及んでいるように思います。

7年後のオリンピックを「震災からの復興」の証にとも言われますが、「7年後」ではない「いまの私たち」にそれが問われていると思います。

■ 塔世山四天王寺 青空句会

あぶれ蚊や渾身の息もてこそ	平川光子
盆過ぎし墓域を歩く鴉かな	岩田光代
羅や会釈の僧の青つむり	上田佳久子
文塚や閻魔蟋蟀ひそみ啼く	駒田多津
今朝秋のかほの小さな太子像	駒田弘子
鰯口の音寂びにけり八月尽	杉田貞子
秋蟬や戦火くぐりし墓碑あまた	豊田麻佐子
青空や蓮の実飛んで極楽へ	中島昭子
将の子を祀ると秋の石ひとつ	前田照子
空蟬の縋る山門柂目立つ	村山三千代
葉がくれのはせを文塚涼新た	山中淑子
潮風に明るる山門新松子	吉田詮子



■かわらないこと 広島県尾道市長福寺 家古谷光現
むかしも今も、また未来においても変わらないこと
がある。そこに空気と水、それに土などという自然が
あって、人間や他の動植物さらに微生物にいたるまで
が、それに依存しつつ生きているということである。
「人間は自分で生きているのではなく、大きな存在に
よって生かされている」と、中世の人々はヨーロッパ
においても、東洋においても、そのようにへりくだっ
て考えていた。この考えは近代に入ってゆらいだとは
いえ、近頃再び人間たちは、このよき思想を取り戻し
つつあるように思われる、と。司馬遼太郎さんが”二
十一世紀を生きる君たちへ”という小文の中で遺され
ています。

このように近代的自我が唱えられるまでは、ヨーロッ
パでも東洋でも、人間は小さな自我で暮らしていた。
小さな自我とは、祈る力を信じていたということです。
祈りは人間に共通する心性の姿、行為ですから、祈ら
ない人はいないはずです。

親が子を想い、仕事や学業や健康、家族の平安、人生
の目的などを祈るのも自然な姿でしょう。宗教を信じ
ている人は、その宗教の祈り方によって祈っているこ
とでしょう。

道元禅師は修行道場で食事を司る人の心得として「御
粥ともうすべし、粥ともうすべからず。御齋ともうす
べし、齋ともうすべからず」と、
ものにも尊敬語を付けて、言葉の上からも祈りを込め
た食事の調べ方を示されています。

また日本には他の国の言葉にはみられない、おひさま、
お月さま、お米、ご飯お汁、お茶などの日常生活で
出合うものにまで、敬語を使う習慣がついたのです。
他に「もったいない」「お蔭さま」「お互いさま」と他
の国の言葉に翻訳することが難しい、美しく謙虚な言
葉を大切に、祈る力を信ずる人間本来の姿を取り
戻したいものです。

■開創に寄せて 愛媛県喜多郡 高昌寺 高嶋武彦
此の度、寺社七ヶ寺が結集して「伊勢の津七福神」
を開設されたとの由、誠におめでとうございます。各
霊場に参拝されて、夫々の本尊様、祭神様のお加護を

受けて下さい。

本来寺社仏閣は良く隣接されてありました。一時代の
誤った政策により不幸な時代を経験いたしました
が、近年再び親しい関係になった事は嬉しい事です。
実は私が住職を勤めております寺、曹洞宗高昌寺も四
国曼荼羅霊場の五十番札所になっております。この霊
場は平成元年に新規に開設されました霊場で、四国
四県で八十八ヶ所あり、神社七、寺院八十一の神仏合
体の霊場です。最近関西地方でも同様の霊場が出来た
との事ですが、古来から日本人は神と仏とを共に礼拝
しておりましたから、別に不思議でもなんでもありま
せん。当、高昌寺でも鬼門の方向に、小さいながらも
社があり、地元の人「伊勢ヶ杜神社」と称しお参り
しております。

勿論その名の通り、「伊勢神宮」をそして「天照皇大
神」を頭にいれてお詣りしております。

広い心で、豊かな心で参拝し、肉体の健全と心の安定
を得られる事を念じ上げます。

■伊勢の津七福神めぐりによせて

函館市 高龍寺・監寺 日比優道

「念ずれば花ひらく」

念ずれば花ひらく 苦しいとき
母がいつも口にしていた このことばを
わたしもいつのころからか
となえるようになった
そうしてそのたび わたしの花がふしぎと
ひとつひとつ ひらいていった

仏教詩人・坂村真民の詩



伊勢の津七福神めぐりのパンフレットを頂きました。
七福神には私たちの身近な願いが載せられています。
必勝祈願、技芸上達、商売繁盛、延命長寿、子孫繁栄、
五穀豊穰、私たちが生きていくのに、何より出来たら
いいなあ、という一人ひとりの願望がこの霊場を巡る
ことによって達することが出来そうだ。欲をかかず、
信念を持って人としての勤めを果たし、願いを身近な
私たちの町、伊勢の津七福神に託して平穏な招福を願
い、七福神めぐりの出来る幸せを感じてみませんか。

■^{みょうこうにん}妙好人への憧れ 津市 弁護士 倉田 ^{いつまる}嚴圓

浄土真宗の寺院に生まれ育ったにも関わらず、高邁な哲学にも教学にも無縁の生活を送ってきた私にとって、理想的な人間とは、浄土真宗でいう「妙好人」であります

妙好人とは、目に一丁字もないが、田舎の寺の老僧に聞法し、仏の救いを確信し、後生を思い煩うことなく安心し、自分の罪深さを自覚しつつ、毎日、感謝の日暮らしをしている田舎の老翁のイメージであります。

そのような境遇とは天と地ほど隔たった生活をしている私には、救われるとはどういうことか頭で考えたり疑問をもったり言葉で説明を求めたりしないで、

救われることに何ら疑いをもたず仏様に全てをお任せするという心持ちになることは、死ぬ瞬間までできないにしても「妙好人」の境地への憧れだけは、常に持ち続けようと思っています。



■どっこいしょ 松阪市 神楽寺 藤本利彦

六根清浄が語源と言われて
います。身体的感覚の眼根・
耳根・鼻根・舌根・身根の五
根は、人間の持っている感覚で
す。これらの働きにより外と
繋がり、心ともいえる、意根という内面的な感覚によ
って、楽しさ、苦しさ、善さ、悪さなどを知覚します。
いやなことを聞いたり見たりする、考えたりする。そ
んな汚れてしまった六根をキレイにする、その修行の
かけ声が六根清浄、どっこいしょ です。



こんなかけ声があるのは、日本語だけのようです。
英語にも、中国語にも有りません。

日々の行動を、修行とし「どっこいしょ」
とかけ声かけて、がんばりましょう。



友の会会費納入のお願い

開創1周年が経ちました。友の会の皆様のご協力のものとこれからの歩みを進めていきたいと思っております。なにとぞ来年度も会員としてご協力をお願い申し上げます。

同封の振込用紙をお使いください。

会費 : 1,000 円/年間
金融機関 : 郵便局
郵便振替口座 : 00820-8-123136
口座名義 : 伊勢の津七福神友の会

《伊勢の津七福神友の会事務局》

〒514-0033 津市丸之内 27-16 高山神社内
電話 : 059-225-8558
URL : <http://isenotsu7fukujin>

■伊勢の津七福神 友の会特典 (会員証をお見せください)

- ・うなぎのつたや 100 円引き
- ・榊原館 日帰り入浴 お茶進呈
- ・谷石材 花筒 5% 引き
- ・大寿司 アイスクリームなどデザートサービス
- ・はま作 和菓子サービス
- ・「彦兵衛」(松菱 7 階)
ランチ 700 円以上でコーヒー 1 杯サービス

編集後記 : 原稿依頼を快く受けてくださり感謝
申し上げます。巡拝した感想などお寄せ下さい。

池上 kanon@nifty.com